

町小だより

平成31年
1月11日
No. 629
御免町小学校

自分の頭で

～ 如何に教えずに、如何に考えさせるか ～

校長 藤井 聡

あけましておめでとうございます。

本年も職員一同、子どもたちのため、保護者や地域の皆様のために尽力していく所存です。何卒、御支援のほど、よろしくお願いいたします。

9月の学校だよりでは、「自分の言葉で」を合言葉にして、教育活動を展開していくことをお伝えしました。その成果は随所に表れ、保護者の皆様、地域の皆様からもお褒めの言葉を多々頂戴するようになりました。今後は、さらに「自分の頭で考える」ことの価値を意識した教育活動を展開して参りたいと存じます。そして、保護者の皆様、地域の皆様とともに、子どもたち一人一人が思い描いた目標の達成に向けて着実に歩みを進めたいと思います。

最近、とくに思うことの一つが「考える」ことの重要性です。世の中がマニュアル化され、パターン化される中、「考える」ということが軽視されてはいないかという危惧をもつことがあります。

マニュアル化されていてって都合の良いことは多々あります。誰がやっても同じ結果を出すことやミスを最小限にとどめることには有効です。しかし、マニュアルがなくても「考える」ことによって対応できたり、モノを生み出したりすることには、それ以上の価値があると思うのです。

子どもたちは、体験や経験を積み重ね、「考える」ことを繰り返す中で、賢く、優しく、逞しく成長していきます。また、子どもたちにとって最も身近な存在である親や家族にさえ頼らず、自分自身で考え、決断しなければならないことに直面することが多々あります。そんな時、頼りになるのは、『自分の頭で』考える力です。この『自分の頭で』考える力を鍛え、伸ばしていく場面は、学校にも家庭にもたくさんあります。たとえば、毎日の授業です。(子どもたちが)教師の提示する課題(問題)に正対し、答えを導き出すために思考を繰り返すことは、『自分の頭で』考える力を身に付けさせる絶好の機会です。たとえ、答えが導き出せずに苦しんでいても簡単に答えを教えてしまっただけでは、この力は身につかないのです。大人は、子どもの意欲を失わせることなく、励ましたり、ヒントを与えたりしながら、後方から支え、あくまでも『自分の頭で』考えさせることを積み重ねていかなければなりません。つまりは、「如何に教えずに、如何に考えさせるか」が極意なのです。

子どもたちが、『自分の頭で』考えられるかどうかは、私たち大人の指導の構えにかかっているのだと思います。